

# VTAP 画面定義支援

## — 動作記述 —

3H-4

岩井 仁史、渡辺 実、島岡 厚一、平井 周作、七里 和洋  
(株 東芝)

### 1. はじめに

本論文ではVTAP画面定義支援を用いて実際に画面入出力アプリケーションを表形式で作成する動作記述について報告する。

と称している。この領域は、複数の画面で出現するデータの共有化も可能であり、また実行性能や処理単位を考えた合わせた領域を設定することも可能である。(図1)

### 2. 動作記述

#### 2.1 記述情報

VTAP画面定義支援では、編集単位をワークユニットと呼んでおり、ワークユニットはまた生成単位と実行単位でもある。このワークユニットに記述するデータは、複数の画面間の動作を記述するための

SCREEN動作

入出力フィールドの入出力順序を記述するための

FIELD動作

入出力フィールドの属性を記述するための

FIELDリスト

キーボード上のキーが押されたときの動作を記述するための

PFキー動作

各動作の前後にどのようなデータ処理を行うかを関数型言語を用いて記述するための

SCRIPT

ディスプレイに表示する画面レイアウトを記述するための

SCREENレイアウト

の6つの情報からなる。

以上が画面入出力の動作制御に関する情報であるが、一方、画面入出力によって発生したデータやサブルーチンを使用してファイルから入出力を行ったデータを蓄える領域が必要である。この領域を

データ構造

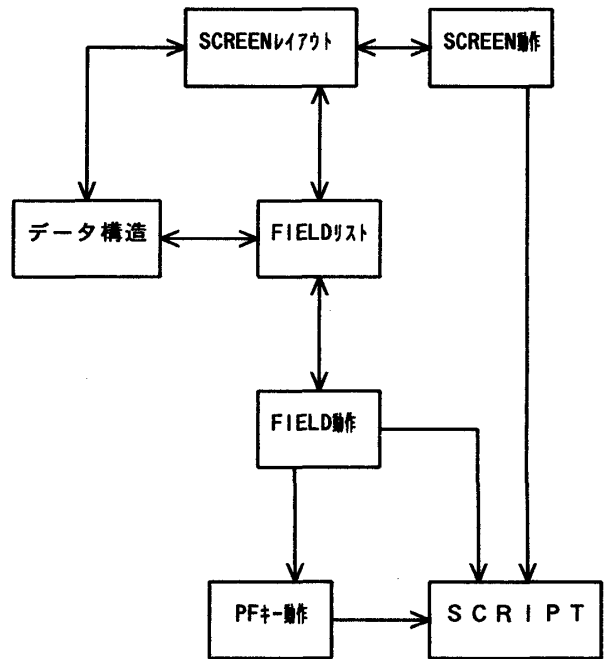


図1. VTAP動作記述全体図

VTAPは統合された支援環境であり、各種の情報を効率よく記述することが可能

#### 2.2 アクションコマンド

VTAP画面定義支援では、キーボード上のキーに対し各種の動作機能を割り付けることにより、さまざまな画面入出力の動きを実現できるようにしている。例えば、“PF1”というキーに“SCREEN前進”という機能を割り付けることにより、実行時に“PF1”キーを押したとき画面が次画面に遷り変わる。これらの機能をアクションコマンドと呼んでいる。(表1) アクションコマンドは標準関数としても提供しており、SCRIPTからも制御が可能である。

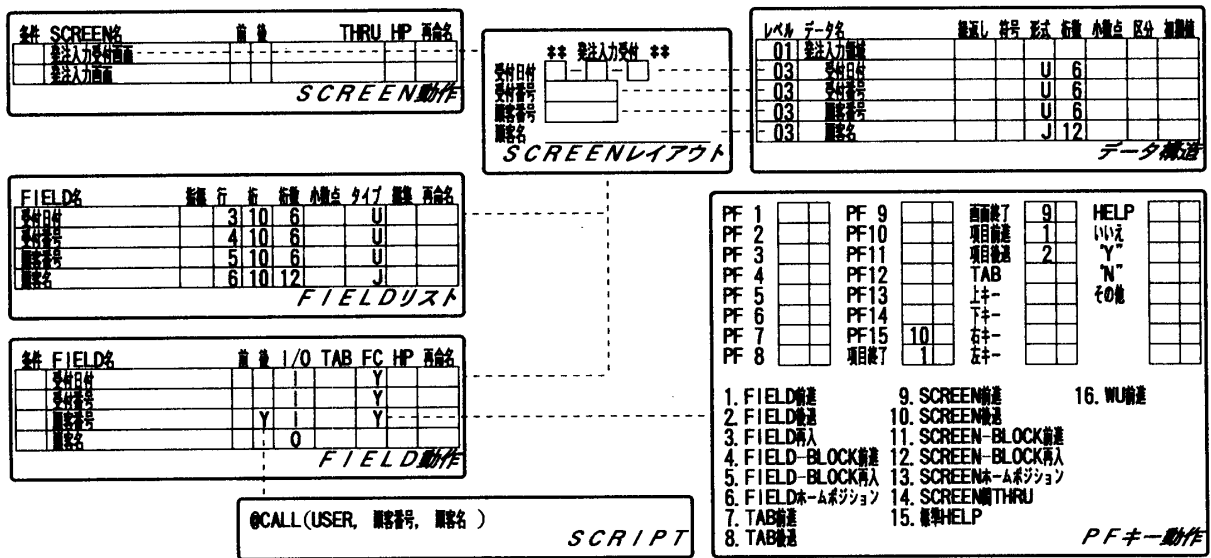


図2. 動作記述の一例

表1. アクションコマンド一覧

NO	アクションコマンド	機能
1	FIELD前進	FIELD動作行を1行前進
2	FIELD後退	FIELD動作行を1行後退
3	FIELD再入	再び同じFIELD動作行を実行
4	FIELD-BLOCK前進	FIELD動作上のブロックを前進
5	FIELD-BLOCK再入	FIELD動作上のブロックの先頭へ
6	FIELDホームポジション	FIELDホームポジション指定行へ
7	TAB前進	TAB停止指定行まで前進
8	TAB後退	TAB停止指定行まで後退
9	SCREEN前進	SCREEN動作行を1行前進
10	SCREEN後退	SCREEN動作行を1行後退
11	SCREEN-BLOCK前進	SCREEN動作上のブロックを前進
12	SCREEN-BLOCK再入	SCREEN動作上のブロックの先頭へ
13	SCREENホームポジション	SCREENホームポジション指定行へ
14	SCREEN関THRU	指定範囲を一括実行
15	標準HELP	標準HELP画面呼出し
16	WU前進	ワークユニットの最後まで実行

2. 3 動作記述の一例

V T A P画面定義支援で作成された画面入出力アプリケーションを実行すると、最初にSCREEN動作の1行目を実行しSCREENレイアウトの初期表示を行い、FIELD名と対応したデータ構造のデータ名の領域に格納されている情報を表示する。次にFIELD動作の

1行目を実行し入出力区分に従い入出力を行なう。区分が“1”の場合は入力要求となる。次にデータを入力し“項目前進”キーを押すと、PFキー動作によりアクションコマンドを決定する。通常、“項目前進”キーに対してはFIELD前進を割り当てている。次にデータ構造のデータ領域に入力値を転送しSCRIPTを実行する。SCRIPTで入力値のチェックや編集を行なった後、再び次のFIELD動作行を実行する。最終のFIELD動作行を実行した後は、SCREEN動作の次行に移る。基本的には、上記の繰返しで動作していくわけであるが、アクションコマンド・SCRIPT・動作記述の方法により、さまざまな画面入出力制御を実現することが可能である。(図2)

3. まとめ

V T A P画面定義支援における動作記述の概要について述べてきたが、今後ともより使いやすい画面入出力アプリケーションを効率よく構築すべく、各機能・動作記述を強化して行くのは勿論のこと、更に実適用を通じてシステム設計・保守までも含めた仕組み改善を計って行きたい。

参考文献

- (1) 若井 他：“V T A P画面定義支援—概要—” 情報処理学会第41回(平成2年後期)論文集
- (2) 島岡 他：“T P 9 0シリーズ画面定義支援” 東芝レビュー1990 Vol. 45 No. 6